

# 令和5年度第1回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和4年度企画事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和5年6月2日(金) 午後6時15分～8時30分  
場 所：宮城野区中央市民センター3階 第3会議室  
出席者：大西委員長、佐藤副委員長、安部委員、有坂委員、  
葛西委員、まちづくり推進課

## 1 開会

※入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

## 2 事業報告及び質疑応答

### (1) すずむしの里づくり事業（実施主体：すずむしの里づくり実行委員会）

<質疑・意見>

委 員 すずむしの里づくり事業が他区に広がっていることは大変素晴らしい。また、今年度は、ボランティア養成講座を開催するとの計画があり、さらに事業の広がりがみられると思う、ぜひ養成講座を成功させてほしい。講座の開催が平日の日中になっているため、参加者が限定されているように思われる。土日等に講座を開催する等の工夫があればよいと思うが、いかがか。

説明者 市民センターの講座の一部として実施する。我々実行委員が企画員として参加し、若い人にも参画してもらう予定である。

委 員 若林市民センターにもすずむしが置いてあったが、この事業と関係があるのか。

説明者 関係はない。若林の沖野の広瀬川の河川敷で300メートルぐらいの雑草が生えている箇所に、すずむしが鳴いている場所がある。地域の方が育てて、放虫しているのではないかと推測される。

委 員 この事業を継続する上で、行政への要望はあるか。

説明者 実行委員の高齢化により事業の継続が難しくなりつつあることが課題である。ボランティア養成講座を開催することで、若い世代にもこの事業に参加してもらい、事業を継続してほしいと考えている。それも難しく、立ち行かなくなった場合には、もとは宮城野区で始めた事業のため区に事業をお返ししたいと考えている。

### (2) 地域はっぴい子育て支援事業（実施主体：みやぎの区民協議会子育て支援部会）

<質疑・意見>

委 員 育児は母親だけがするものだけではなく、父親の子育て参加率も上昇しているため、そろそろ「ママらいふ手帳」の名称を考え直す時期に来ているのではないかと感じた。また、「ママらいふ手帳」の内容も見直しするのであれば、社会にでていく準備をするような内容も盛り込むと新しい展開が生まれると思われるが、いかがか。「地域で子育てを楽しめる」という目的のもと、児童館や支援センターが協力して事業を行っているのは非常によいと考えているので、今後も新しい試みをしてほしい。

説明者 「ママらいふ手帳」の意義や中身については、世相が変わって来ているため検討が必要であると考えている。昨年度は、父親の子育てニーズや、これから社会進出してく母親・女性のニーズに答えられないかということで、講座を土曜日に開催できないかという話も出ていた。今回の話を参考に検討をしていきたい。

委員 紙の手帳からアプリに移行するということは考えていないのか？  
説明者 7年前に初めてこの事業に参加した時に同じ提案をしたことがあるが、活動を続けていくと、紙等のアナログの材質が、子育ての中での温かみにつながり、必要なものだという意見がある。一方で、若い母親からは字が小さくて見難いという意見や、コロナ禍でこういう時はどこに連絡すればよいのか？等の情報を載せてほしい等のニーズもある。そのため、折衷案として、紙の手帳にウェブや動画への誘導を盛り込むことで対応している。

委員 手帳の内容及び手帳を作成するにあたっての苦労があれば教えてほしい。  
説明者 手帳は、孤立した子育てにならないためのアイテムとして、使ってもらうことを想定しており、前半には、母親である前に、一人の女性として振り返りができる内容、後半は、子育て中の孤立を防ぐため、主に子育て支援情報を掲載している。とはいえ、一人で手帳を駆使することはなかなか難しいため、手帳活用講座を開催し、同じ境遇の人が集まれる場所を作ることが、当初のコンセプトである。また、部員の意見や手帳活用講座参加者の要望を取り入れ、子育て支援施設の情報やメディアが育児に与える影響についてのコラムを掲載している。

手帳の作成にあたっての苦労は、手帳の情報量に限りがあるため、ニーズを満たせるような新しい内容を載せる際に、差し替えが発生している点である。

### (3) おらほの公園草刈隊支援事業（担当課：宮城野区公園課）

#### <質疑・意見>

委員 公園の草刈りをすることは、公園の美化だけではなく、地域づくりにとても重要な意味を持っていると考えているため、引き続き事業を継続していただきたい。除草機械の更新が課題となっていたが、区のお金を使わず、企業等の寄付等により更新ができれば更によいのではないかと考えている。

委員 この制度ができた当初は、除草機械を区役所まで取りに来ることが原則のため、自ら運べない場合は、除草機械を借りることができないと聞いていたが、現在はどうなっているか？

説明者 規約上は、貸し出しにあたり、原則取りに来ていただくことは変わっていない。ただし、現在は、相談の上、区役所が前日までに除草機械の運搬をしている場合もある。

委員 そういう状況なのであれば、大々的に周知をしてもらい、この制度を活用してもらいたい。

### (4) ご近所ふれあいステップアップ事業（担当課：宮城野区区民生活課）

委員 事業の成果の出し方について、この事業の実施前後で、地域の変化や参加者の声をまとめると事業の評価につながると思うので、今年度から活動の中に加えていただきたい。

説明者 市民センターでのPRが鍵となるため、取り組んでいきたい。

委員 安全安心まちづくりについては、地区だけでは活動の機会を持つことが難しいため、安全安心まちづくり活動推進モデル地区事業でモデル地区に指定されることにより、初めて地域で活動ができるよい事業である。ただし、モデル地区の指定が外れると、その活動が弱まってしまうことがあるため、何か継続ができるようなトリガーがあれば、さらによい活動となる。ぜひ活動を続けてほしい。

委員 収支決算書にて、収入が 0 円なのに対し、支出が 76,200 円となっている。収支が合わない理由を教えてください。

説明者 地域防災力向上事業と合わせた予算計上のため 0 円とした。来年度からは、収支が合うよう記載をする。

#### (5) みやぎの・まつり（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

委員 コロナ禍の中で、久々のお祭り開催を無事故で切り抜けたことは、大変すばらしい。2 年もぜひ無事故で開催できるよう対策をお願いしたい。

説明者 5 類に移行したが、状況を注視しつつ、今年度も無事故で開催できるよう準備をしたい。

#### (6) みやぎの地域力向上支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

委員 委託料の内訳が不明なため、事業の評価がしにくいというところが、正直な感想である。

説明者 委託料の内訳はコーディネータの人件費が約 60 万円、外部講師の謝礼等約 1 万 5 千円、会場使用料約 4 万円、資料作成が約 6 万円である。来年度からは、詳細を記載するようにしたい。

委員 昨年度は原町周辺を対象としているが、今後は対象を広げる可能性はあるのか？

説明者 原町以外に駅東近辺も対象に加えることを考えている。

委員 まち歩きが主な活動となっており、その結果を SNS 等で発信する他に、何か区民に示せるような活動はしているのか？

説明者 市のホームページ等へ掲載するなどの他、効果的なものがあれば検討していきたい。昨年度であれば、榴岡小学校に寄贈されてあった駅裏開発のため取り壊された二十人町商店街のジオラマについて、駅東支部が修理の上、駅東交流センターにて展示している。目でみて触れるようなものも含めたアーカイブをしていきたいと考えている。

委員 「みやぎの・アーカイ部」の事業は、みやぎの地域力向上支援事業であるため、いずれは自ら活動していくことになる。事業費の半分以上を業務委託費の人件費に充てているが、自走ができるようになれば、業務委託費が少なくなるという認識で問題ないか？

説明者 今は、団体が自走していくための支援が必要であると考えているが、いずれは自走できる状態になるのが望ましいと考えている。

委員 「みやぎの・アーカイ部」の委員の年代層や人数を教えてください。

説明者 駅東、原町でそれぞれ 10 人以上。年齢は、若い方だと 30 代がいるが、50 代以上の中高年が多い。

#### (7) 宮城野盆踊り普及事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

委員 収支決算書の収入額と支出額が相違している。意味合いがあれば教えてください。

説明者 市の直営事業のため、市の予算決算書の書き方になっており、収入額は、一般的な収入額ではなく当初予算額を記載した。他の事業の収支決算書との整合性がとれないため、記載方法については検討したい。

委員 夏祭りで盆踊りを踊らない町内会があったり、そもそも踊りたいという人も少なくなっ

いる流れの中で、盆踊りを普及させるのは大変だと思っている。みやぎの区民まつりで開催するのはできるかもしれないが、町内会にまで普及させるのは大変だと思うが、頑張っ  
てほしい。

#### (8) 震災の記憶伝承と命を守る防災学習（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

委員 先ほどの地域防災力向上事業と震災の記録伝承と命を守る防災学習について、目的である「防災」と対象の「地域」がおおよそ同じであることから、コラボはできないのか？

説明者 事業の対象が異なるため、実現には検討が必要である。区民生活課で実施している地域防災力向上事業は、避難所や冠水する場所を提示し、災害時の行動をシミュレーションしながら、町内会単位の防災力を上げるものである。震災の記録伝承と命を守る防災学習については、子供達を対象に、災害というものを身近な問題としてとらえ、被災した時の困り事があった時どうするか？普段から食べている物でも知恵と工夫で被災時にも食べられること等を実際に調理しながら、自分事として考えてもらう事業である。共催する場合などは、開催時間や場所等で検討が必要であることはご理解いただきたい。

委員 この事業の事例については、市民センターの他にも、高砂や岩切等広いエリアで実施してほしい。

説明者 検討する。

#### (9) みやぎの・まちづくり若手人材育成支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

委員 この事業は、まちづくりのプレイヤーを育てるのか、プランナーを育てることを目標としているのか、教えてほしい。

説明者 まちづくりに興味があるが、どう行動すれば良いか分からないという方を対象としているため、まずはプレイヤーを育てることを対象としているが、いずれはプランナーになる若い世代を育成する事業としてきたいと考えている。

委員 その場合は、5年から10年かけてまちづくりの人材を育成する必要がある。長期の事業計画をたてた上で、一年ごとの評価をすると、より実効性のある事業になると考えている。

説明者 参考としたい。

委員 担い手が不足しているという点では、町内会役員と共通する課題がある。この事業の若手は、一般的な考え方の若手が対象なのか？

説明者 町内会は、40～50代だと若手と言われているが、この事業はまちづくりの担い手を想定しているため40代までを対象としている。

委員 仕事を持つ世代が対象となるため、参加者の募集については苦勞すると思う。町内会でも担い手不足の課題があり、中学生等の若いうちから担い手を作るための機会を設ける必要があると感じているため、本当に頑張っしてほしい。

委員 前回の事業に参加した16名の属性を教えてください。また、人材育成事業のため、参加した人の活動の広がりや意識の変化について報告書に記載すると事業として評価しやすいが、いかがか。

説明者 会社員、駅東まちづくり協議会、区職員など幅広い業種から参加していた。男女比は半々、年齢は30代から40代が主である。今後は実績報告にわかるように記載したい。

委員 20年ぐらい前に、この事業と同じようなまちづくりに関する事業に参加したことがある。同じような2年制で、30代半ば～50代の若手20名ぐらいが集まり、宮城野区のまちづく

りについて自由に話し合い、「宮城野区」ってどんなまち？から始まり、自由に何回も話し合いをすすめ、こんなものがあつたらいいよねという話から、まちづくりについて考えたことがない人が「まちづくりに対する気づき」を得て、その後の活動につながり、非常に楽しかったことを覚えている。その事業では、2年間ほぼメンバーが減ることなく、最後まで参加していた。

同じような事業なのに、この事業では当初16名いた参加者が期中に減ってしまった。その一因として、コーディネーターが入ることにより、勉強会のようなやり方になってしまったためではないかと推測している。質問ではなく意見になってしまったが、そのあたりどのように考えているのか。

説明者 本来の理想としては、フィールドワークやセミナーを軸として、その間で受講生同士が交流し、活動の活発化を狙っていたが、コロナ禍もあってか、シナリオが難しかったのか思うように進まなかった。今期については、セミナーやフィールドワークなど形式的なものばかりではなく、それ以外の部分も充実していけるようにしたい。

委員 昨年の1期終了時の実績報告では、町内会なしでまちづくりはあり得ないという話をした記憶がある。町内会は多くの課題を抱えており、一緒に解決してくれる若い人を喉から手が出るほど欲しいと思っている。「住みやすい・生きやすい地域をつくりたい」という想いは一緒なので、町内会が抱えている課題の共有や、意見交換など、町内会を巻き込んだ足元を見据えたまちづくりも是非検討してほしい。

説明者 宮城野区で若手のまちづくり人材を育成する事業のため、町内会や地元の意見を取り入れられるよう協議して事業を行いたい。

#### 4 閉会